

石州瓦の魅力

多彩なデザインで洋風住宅にも

石州瓦は、現代の暮らしに合う洋風住宅用デザインも豊富だ。モダンでシンプルなフレンチスタイルにはシャープで落ち着きのある外観を生み出す『平板瓦Fタイプ』。また『S瓦タイプ』は明るい地中海をイメージ。色や形状も多彩に揃う。



長期的に見ると断然オトク！

一般的に10年おきに塗り替えが必要な金属製や化粧スレート等の屋根と比較すると、石州瓦はほとんどメンテナンスフリー。ほとんど劣化や色褪せなどがないので、塗り直しや葺き替えの必要がなく、30年以上の長期的なコストを見ると経済的な屋根と言える。

石州瓦はメンテナンスフリー。20年後では、瓦屋根が断然お得です。

屋根材の耐用年数		屋根材のメンテナンス費用			
		新築時	10年後	20年後	20年間に必要な経費
カラー鉄板 (瓦棟葺き)	15年	金属屋根	屋根材	塗装・足場代	1,310,000円
ガルバリウム 鋼板葺き	30年		350,000円	480,000円	
カラーベスト葺き (薄型スレート)	30年		塗装・足場代	480,000円	
粘土瓦葺き (J形)	60年	粘土瓦 (J形)	屋根材	メンテナンス費	800,000円
			650,000円	0円	
			壁量躯体追加工事 150,000円	メンテナンス費 0円	

※CASBEE(建築物環境性能評価) HPより

※金額・年数はあくまで目安です。
※全国陶器瓦工業組合連合会・一般社団法人全日本瓦工事業連盟作成による「瓦屋根・金属屋根のランニングコスト比較資料」に基づき、石州瓦工業組合が試算したものです。

取材協力/石州瓦工業組合

名品は永遠
石州瓦工業組合

〒695-0016 鳥根県江津市嘉久志町イ405 TEL 0855-52-5605 FAX 0855-52-0766
http://www.sekisyu-kawara.jp/ 石州瓦 検索 E-mail rooftile@tx.miracle.ne.jp

独自の製法による高い機能性

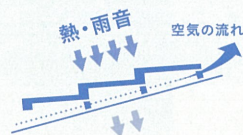
石州瓦の一番の特徴は耐久性だ。雨、積雪、日射、風、潮風など過酷な気候条件でも50~60年、それ以上劣化することなく住まいと家族を守る。その機能性の高さは原材料となる都野津層の粘土と、1200度以上という焼成温度の高さにある。



石州瓦は互いにかみ合いの組み合わせ構造。山陰に吹き荒れる強風にあっても、瓦のめくれやズレを最小限にとどめる



石州瓦の重い屋根が建物を大地に押し付けるので、躯体さえしっかりしていれば、地震の揺れにも強さを発揮する



風や地震に強く耐久性がある上、断熱、防露、遮音といった二次的性能も優れている。このため住まいの快適性や省エネにもひと役

家族を癒やす 現代的な和の家



当初は改築のためにしおた工務店を訪れたO様。同社が建てる和の住まいを見て新築に踏み切ったとか。室内は杉の無垢材を用いるなど自然素材も多く使用した



横から見た屋根の形がハの字に配されていることから、毎年8月8日は「屋根の日」とされているそう。O様邸もきれいな「八八」を描いていた



深い軒をつけ、住む人を日差しや雨、雪から守る玄関アプローチ。ゆったりとした空間には風格が漂う。軒を支える梁と柱もどっしりと太い



木材の表面にかすかな凹凸を付けたうづくりの廊下は、玄関の陽を受けてできた影が美しい。足の裏に伝わる感触が温かく柔らかいのが特徴だ

取材協力/しおた工務店 広島県安芸高田市甲田町高田原1212 TEL0826-45-3658



しおた工務店
代表取締役 塩田崇史

家族の暮らしを守る
丈夫で力強い家

安芸高田市を中心に展開するしおた工務店は、地元の木材を使用しその土地に合った家作りをモットーとしている。2016年7月に完成した安芸高田市のO様邸は、周囲を川や田畑に囲まれた延床面積45坪のゆったりとした和風建築。明治以降、代々この地で暮らす旧家で、この度完成した住まいはご夫婦とお父様の3人が暮らすための家だ。屋根瓦はもちろん石州瓦を使用した。「黒というより、いざし銀のような波みのある瓦が整然と並び様が気に入っています」とご主人。屋根は切妻という形状で、棟(むね)と呼ばれる頂上の直線や波打つように並び様が、どの角度から見ても美しい。「その地域で作られた物が、その地域の住まいに一番ふさわしく美しいと思います」と石州瓦の魅力を話すしおた工務店の塩田崇社長。冬は雪深く寒さが厳しい安芸高田市にあっても、住まいを暖かく包み込み、これから50年60年、もっと長くこの家と家族を守っていくだろう。